

単元名：

「足し算のひっ算」

(全2時間扱い中 第1時)

授業日時 2019年8月29日(木) 第2校時

授業学級 2年東組

授業会場 2年東組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

児童(生徒)は、位でそろえていることがわかり、繰り上がりのある3口の足し算を筆算形式に表して筆算できる。

(2) 授業のポイント

- ・2口の足し算をする場面で、筆算で計算したいと願った子ども達が、繰り上がりのある2口の足し算を筆算で計算した。【前時までの子どもの様子】
- ・足し算を筆算形式にすることを通して、3口の足し算を筆算に表す方法を考える。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	1. 2口の足し算の筆算の復習(十の繰り上がりがある) $38+75=113$	○「筆算に表して問題を解いてみよう」 (意図) 繰り上がりのある2口の問題の理解を確かめるため。3口の筆算の時に、既習の内容を活用できるようにするため。 ◎黒板に説明が出来るなら説明も加えながらこたえてもらう。	10
	【学習課題】問題の式を2パターンの式に表そう！		
展開	2. 問題提示 ①と②の2つのパターンの問題を式に表す。	★パワーポイントを用いて問題を提示する ○「パターン①と②はそれぞれどんな式になるかな？」 (①…計算をひとまとめにして考える、②…計算を二つに分けて考える) ◎「二つの式のちがいがわからない！」 ◎「②の書き方がわからない」 ◇2つの考え方がある事をしっかりと示す	15
	3. 2の活動で表した式を筆算に表す(個人で考える→発表)	○「クマさんとウサギさんの買い物に使ったお金はどちらが大きいかな後で聞くね」 (意図) 計算の答えが同じという事に結びつきやすくするため ○「今書いてくれた式を筆算に表してみよう」 ◎3口の足し算の筆算の表し方が分からない ○「クマさんとウサギさんどちらが買い物に使ったお金は大きかった？」 ◎「同じになった！」 ○「なんで答えは同じになったのかな？」 ◎「同じ数を足しているから」 ○「2つ書いてくれた筆算のそれぞれ違う事や同じことってなんだろう？」 ◎「位でそろえた」「計算する数が違う」「①(②)の方が解きやすい」	15

		【評価（対象）】2 パターンの式を筆算で表すことができる(ノート)	
終末	4. まとめ	○「一つの計算を2つの筆算で表すことができたね」 「今までは2つの数までの筆算だったけど、今日みたいに3つの数の足し算も筆算で表すことがわかったね」 ○「どちらの筆算の方がやりやすかった？」 「次回は繰り上がりのある三つの数の足し算を筆算で計算してみよう」	5